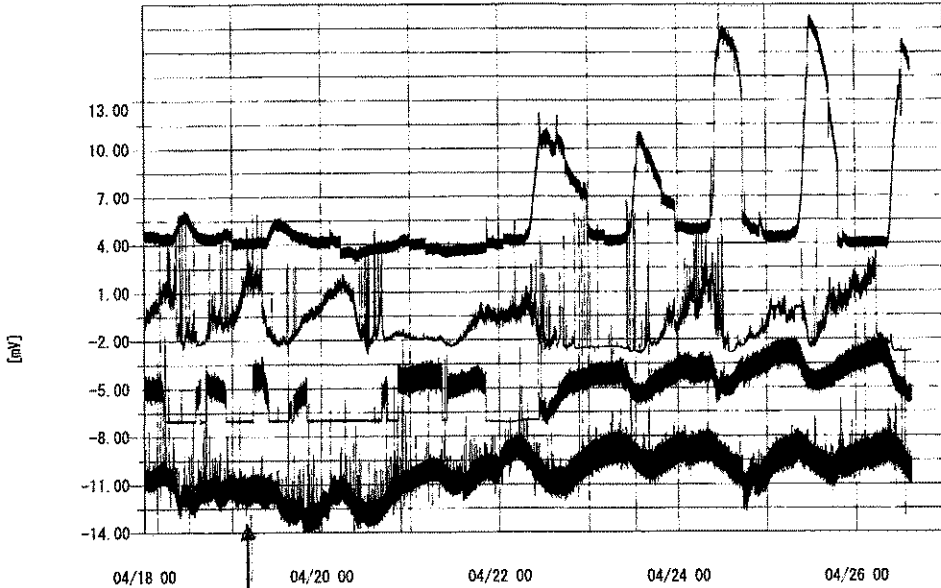


原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

No.1778 長期継続特殊前兆続報 現況報告



- CH34BT ● (4/19.2)
- CH04特異 ● (4/19.4)
- CH12特異 ● ● (4/19-20)
- CH07特異 ● (4/20.2)
- K8, K9 BF ● (4/19.9-20.3)
- ◆ 極大=4/19.7±

No.1778長期継続特殊前兆の続報です。4/19~20に極大出現の可能性が示唆されていましたが、左のとおり、4/19.7±が極大認識できます。

上波形のとおり、糸状特異が継続していたCH17は、4/22より正常基線継続。

特異状態は完全静穏化した可能性もあります。CH21は特異状態継続中です。AIBTは極めて微弱なBT継続中。その他として、上波形のとおり、CH34に4/22午後より微弱な基線幅増大(BT)が出現しています。右はCH34の微弱なBT変化のスケッチですが、午前09時前後に変化時刻が見え、現在のNo.1778の発生推定時刻 AM 9:00±1 と同じ状態を示す。また上波形の一番上基線CH29に、4/22より大きな変化が出現継続しています。波形の右側に記したとおり、こちらも午前09時前後に変化開始が見えます。

さて、4/19.7±極大認識に対する初現ですが、一兩日中に前兆終息の可能性は考えられませんため、当初可能性を考えた4/14.0初現の可能性は否定されます。従って、4/9.5初現か、それ以前に初現があった可能性となります。4/9.5初現の場合には、5/3±に前兆終息の可能性。仮に終息した場合は5/7±を示しますが、実際の終息はより先となる可能性も有。注意深く観測中。少なくとも現状、5/7±以降が示唆される。

参考: 熊本・大分群発的地震活動について

九州熊本~大分での群発的広域大型地震活動につきましては、BF観測直後の4/2時点で4/13±4 発生の可能性を観測情報で報告。しかし、BFだけでなく、観測歴上最長のS型N型火山帯近傍地殻地震前兆からも4/15±が計算可。さらにS型N型出現開始とBF前兆極大を群発経験則に当てはめると4/15±が計算可であることが判明。

前兆規模はM6.0±0.5ですが、張力破壊地震のため、正断層と同様に引っ張り破壊で前兆減衰が-M0.5あった可能性有。従ってM6.5±0.5が推定規模となりますが、M7.3は誤差範囲外です。前兆と実際の活動から下の3項が複合した特殊な地震活動の可能性。

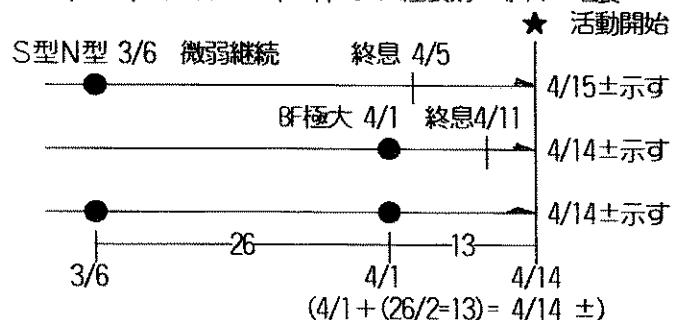
【実際の地震活動】

【観測された前兆形態】

- ①火山帯近傍地殻地震(震源0.8km以下)——火山帯近傍地殻地震前兆観測
- ②通常地殻地震の発生(震源10km以上)——通常地震BF前兆も観測
- ③群発的地震活動——群発地震経験則が適用できる

※初現~発生=T_{fap} 極大~発生=T_{map}
静穏期=T_{pp} としたとき

T_{fap}:T_{map}=20:13 T_{fap}:T_{pp}=6:1 経験則 4/14~地震



※群発経験則 初現~極大:極大~活動開始=2:1

※今回の地震でお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。と共に、被災された皆様方へ、心よりお見舞い申し上げます。